



府 食 第 3 1 号  
令和元年5月23日

食品安全委員会委員長 佐藤 洋 殿

研究・調査企画会議

事前・中間評価部会 座長 山本 茂貴

令和元年度食品健康影響評価技術研究の追加公募における採択課題  
(案) について

このことについて、令和元年5月20日に開催した令和元年度研究・調査企画  
会議事前・中間評価部会（第1回）における審議の結果、別添のとおり取りまと  
めましたので、報告いたします。

(別添)

令和元年度

食品健康影響評価技術研究の追加公募における  
採択課題（案）について

令和元年 5 月

食品安全委員会 研究・調査企画会議  
事前・中間評価部会

令和元年度食品健康影響評価技術研究の追加公募における採択課題

受付番号 主任研究者名 (所属機関名)	研究課題名 (研究期間)	研究概要	評点 (20点満点)	評価所見
3 小野 敦 (岡山大学)	国際動向に立脚した農薬代謝物の新たなリスク評価手法に関する研究(令和元～2年度)	<p>農薬の食品健康影響評価においては、有効成分(親化合物)のみではなく植物や動物体内において生じる代謝物の評価も重要である。近年、JMPR(FAO/WHO合同残留農薬専門家会議)やEFSA(欧州食品安全機関)では、原則、全ての代謝物について安全性の評価を行うという考え方にに基づき、in silico評価技術を始めとした新しい評価手法の活用が進められている。本研究は、国際機関等における農薬代謝物の評価方法や考え方及び評価事例の調査を行い、それらの評価手法の我が国における農薬評価への適用について検討し、得られた成果をもとに我が国における新たな評価の考え方を提案することを目的としている。</p>	16.3	<p>(総合コメント) 公募内容に合致しており、適切な人選がされている。現在の提案内容に加え、国際的整合性のとれた手法について考察すれば、より成果が期待される。</p> <p>(その他) ・毒性評価側からのアプローチは妥当だが、国際的整合性のある評価手法である実際のばく露量推定の方法についても考察することを期待する。 ・海外評価事例の調査について、より具体的な方法・見込まれる成果を示してほしい。また、JMPR等の中心的メンバーからのヒアリングが望まれる。</p>